

学校名	串本町立橋杭小学校
授業者	清野 真生子

1. 単元計画

2. 単元名

「つなみからいのちをまもろう」

3. 学年

第2学年

4. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科、特活、算数科

5. 単元の概要

「海から身を守る」という観点で、授業を計画・実施する。

大きな地震の後には津波が起きることや津波について知り、どこに避難すればよいかを考える。

また、津波から命を守るために、できるだけ早く高いところへ避難することが必要であることを理解する。

自分や家族が避難するのに適した場所や、避難経路について実際に見て確かめ、命を守る行動について具体的に考えさせる。

知識・理解

津波について理解する。安全な避難場所、避難の仕方について理解する。

体験的な活動

避難経路や避難場所を実際に見て確かめる。

6. 単元設定の理由・ねらい

児童は、これまでの学習で、大きな地震の後には津波が来るということについて知っている。また、定期的に避難訓練を経験しているため、自分の身を守りながら、安全な場所へ迅速に避難しなければならないことも知っている。本単元では、今までよりもさらに具体的に津波について学ぶことで、安全への意識をより高めたい。また、校区めぐりの学習で、実際の避難経路や避難場所を見て回ることで、より安全な避難場所や避難の仕方について、児童が具体的に考えて実践できるようにしたい。

7. 育みたい資質や能力、態度

- ・地震が引き起こす大きな揺れや津波から身を守るため、状況に応じて主体的に判断し、適切な避難行動をとることができる。

8. 単元の展開（全5時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価…☆印 外部連携 / 使用教材等
1	<p>1 津波の高さについて学習することを学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">[鵜住居小学校の被害写真を提示]</p> <p>2 津波の高さを調べる。</p> <p>3 津波が来たときの避難場所について考える。</p> <p>4 津波の高さについての学習をしてわかったことを確認する。</p>	<p>○3階の窓まで津波が来て、車が流されてきたことを気付かせる。</p> <p>○算数の単元「長さをはかろう」の学習における発展的な内容として、津波の高さについて考えさせる。</p> <p>○10cmごとにめもりをつけた5mのテープものさしを用意する。(児童に作成させたものを活用することも考えられる。)</p> <p>○式を使って説明させる。</p> <p>○廊下や運動場などの広い場所に出て、15mの長さがどれくらいかを調べさせる。</p> <p>○校舎を外から眺め、15mの高さがどれくらいかを想像させる。</p> <p>○校舎の高さを予め調べておく。 (3階までなら約12m)</p> <p>○【津波ハザードマップ】で校区の避難場所を確認しておく。</p> <p>○高さがイメージできる写真等を提示する。</p> <p>○各校区の避難場所・高台等の写真・画像を提示する。</p> <p>☆津波から命を守るために、どこに避難すればよいかについて適切な場所を考えることができたか。</p>
2	<p>1 津波の威力について学習することを学ぶ。</p> <p>2 津波の特徴を知る。</p> <p style="text-align: center;">[動画] DVD 特別映像を上映</p> <p>3 津波への対応を考える。</p> <p style="text-align: center;">[動画] DVD チャプターBを上映</p> <p>4 学習してわかったことを確認する。</p> <p style="text-align: center;">[ワークシート-13] を配付</p>	<p>○60cmの浅い津波でも、人が簡単に流されてしまうほど津波の流れは強いことをおさえる。</p> <p><津波による人体流下実験></p> <p>○2mの波は、木造の壁を簡単に壊してしまうほどの威力をもっていることをおさえる。</p> <p><木造壁破壊実験></p> <p>○疑似体験から、津波の流れの強さについて考えさせる。</p> <p>○60cmの高さを示す。</p> <p>○津波力実験の映像を思い起こさせる。</p>

		<p>○津波が近くまで迫ってからでは、逃げるのが困難になることを気付かせる。</p> <p>【動画】 チャプターB 津波映像の衝撃 ～スマトラ地震から学ぶ (4:00)</p> <p>○津波が来る前に早く高いところに避難する必要性があることを気付かせる。</p> <p>○【ワークシート】に記入させる。</p> <p>☆津波の流れの強さを知ることができたか。</p> <p>☆津波から命を守るためには、すぐに高いところへ避難しなければならないことを理解することができたか。</p>
3	<p>1 学校で大きな地震が発生したときの身の守り方について学習することを知る。</p> <p style="text-align: center;">写真を提示</p> <p>2 地震発生時の避難方法について、劇を見ながら考える。ペープサート</p> <p>3 学習したことをまとめる。</p> <p>◇大事なこと</p> <p style="padding-left: 20px;">お・・・おさない は・・・はしらない し・・・しゃべらない も・・・もどらない</p> <p>◇学校で地震が起こったときどうするか実際に動いてみる。</p> <p>①物が落ちてきそうなところから離れ、机の下などにもぐる。</p> <p>②揺れが収まったら、防災ぎぶとんを被り、騒がず廊下に並ぶ。</p> <p>③人を押したり走ったりせずに階段を下り、運動場に避難する。</p> <p>◇休憩時間中で先生がそばにいないときはどうするか、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場にいるときは、教室に戻らず、運動場にいる。 ・教室やトイレや廊下にいるときは、先生がやってくるのを待たずに、安全なところを通って運動場に集まる。 	<p>○今まで、どんなところでどんなときに地震を経験したかを発表させる。</p> <p>○大地震が発生すると、どのような被害が発生するのか想像させる。</p> <p>【資料】 教室の絵</p> <p>○ワークシート</p> <p>1. 教室の絵で危ないと思うところに○を記入させる。</p> <p>○ ○を付けたところとその理由を発表させる。</p> <p>○避難の仕方、身の守り方について確認する。</p> <p>○知識の習得だけでなく、避難の約束「おかしも」を守り、実際に行動ができるようになる○場面の様子がよく分かるような劇を見せて、意見を発表させる。</p> <p>【資料】 ペープサート台本「あんぜんにひなんするには・・・」</p> <p>① 大騒ぎする様子の劇を見せる。</p> <p>② 避難するときに、走ったり人を押したりする様子の劇を見せる。</p> <p>③ 教室に忘れたものを取りに行こうとする劇を見せる。</p>

		<p>○ワークシートに記入させる。</p> <p>①「おはしも」の約束を確認する。</p> <p>②その他の大事なことや、分かったことを書かせる。</p> <p>○実際に、避難訓練のようにやってみる。</p> <p>○【資料】訓練用緊急地震速報を流し、安全に行動できるように指導する。</p> <p>○急なトラブルがある場合は、避難経路が変わることも知らせる。</p> <p>☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。</p>
4	<p>1. 町探検に行き、実際に避難経路や避難場所を確かめてくることを知る。</p> <p>2. 町探検に行き、避難経路と避難場所を確かめ、思ったことや気づいたことをたんけんカードにメモする。</p>	<p>○交通安全指導(意識付け)</p> <p>○マップで場所の確認。(意識付け)</p> <p>○避難標識を見つけ、意味を考えさせる。その後確認。</p>
5	<p>1. 避難経路や避難場所を見に行き、わかったことや気づいたことを伝え合うことを知る。</p> <p>◇前の時間にメモしたことを、友達や家の人にわかるように文にまとめて、発表する。</p> <p>文を書く。</p> <p>自分で読み返した後、ペアで交流。</p> <p>全体に向けて発表。</p> <p>感想を伝え合う。</p> <p>2. 津波の避難場所がどのような場所だったかを確かめる。(高くて広い。高くて平らなところ。)</p> <p>発言の中から、地震・津波はいつ起こるかかわからないし、どんな高さまで来るかわからないから、一秒でも早く、1cmでも高いところへ避難することを確かめる。</p>	<p>☆校区の避難場所、避難経路を知ることができたか。</p> <p>☆高くて広いところが避難場所であることを確認できたか。</p>

9. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

10. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

11. 本時の目標

津波の高さについて具体的にイメージし、津波から命を守るために、どこに避難すればよいかについて適切な場所を考えることができる。

12. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 津波の高さについて学習することを学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"> <p>鵜住居小学校の被害写真を提示</p> </div> <p>◇これは、東日本大震災の津波で被害を受けた学校の写真です。気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車が3階に引っかかっている。 ・運動場にゴミがたくさん流れてきている。 <p>◇いったい何mの高さの津波が来たのでしょうか。津波の高さを調べましょう。そして、津波が来たときには、どこに避難すればよいかを考えましょう。</p> <p>2 津波の高さを調べる。</p> <p>◇これは、1m ざし 5 つ分にあたる 5m のテープものさしです。入口のドアの高さはおよそ何 m 何 cm か、各班で測ってみましょう。</p> <p>◇今から 150 年ほど前に起こった安政南海地震では、串本町では高さ 15m の津波が来たそうです。5m のテープものさしを使って、この時の津波の高さがどれくらいであったかを調べたいと思います。どうすればよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$5m + 5m + 5m = 15m$ になるから、5m のテープもの 	<p>○3階の窓まで津波が来て、車が流されてきたことを気付かせる。</p> <p>○算数の単元「長さをはかろう」の学習における発展的な内容として、津波の高さについて考えさせる。</p> <p>○10cm ごとにめもりをつけた 5m のテープものさしを用意する。（児童に作成させたものを活用することも考えられる。）</p> <p>○式を使って説明させる。</p>

さしを3本つなぎ合わせる。

- ・ $5\text{m} \times 3 = 15\text{m}$ になるから、5mのテープものさしを3本つなぎ合わせる。

◇5mのテープものさしを3本つなげましょう。

◇校舎の高さは、〇階までで約〇mです。15mの津波の高さと校舎の高さを比べてみましょう。

例) 3階建ての場合

- ・ $15\text{m} - 12\text{m} = 3\text{m}$ 津波のほうがまだ3m高い。

3 津波が来たときの避難場所について考える。

◇津波から命を守るためには、どこに避難すればよいでしょう。学校より高いところは、どこにあるでしょう。グループで話し合しましょう。

写真を掲示

◇校区には、避難場所となっている高台やビルがあります。家へ帰ったら、自分の家の近くの避難場所などがどこにあるかについて、家の人と一緒に確かめましょう。

4 津波の高さについての学習をしてわかったことを確認する。

◇ワークシートに、学習して気付いたことやわかったこと、地震が起こったらどうするかを書きましょう。

【ワークシート】を配付

◇まとめたことを発表しましょう。

○廊下や運動場などの広い場所に出て、15mの長さがどれくらいかを調べさせる。

○校舎を外から眺め、15mの高さがどれくらいかを想像させる。

○校舎の高さを予め調べておく。

(3階までなら約12m)

○【津波ハザードマップ】で校区の避難場所を確認しておく。

○高さがイメージできる写真等を提示する。

○各校区の避難場所・高台等の写真・画像を提示する。

☆津波から命を守るために、どこに避難すればよいかについて適切な場所を考えることができたか。

13. 今回の活動の自己評価

この学習を通して、児童は人知では制御することができない海の脅威の一端について学び、自分の命を守るための行動について考えることができた。

津波の高さや威力について、1年生のときよりもさらに具体的に知ることを通して、児童がより真剣に学習に向かうことができたと感じた。算数科で学んだことを実際の生活に役立たせる体験ができたことも良かった。また、校区内の避難経路や避難場所をめぐるなかで、避難標識について知ることができた。自分の命を守ることにつながる目印としての標識に子ども達の目を向けさせることができたのも良かった。

想定不能の災害から身を守るためには、可能な限り多く、避難訓練や防災学習を積み重ねていくことが必要である。今回は、児童と職員での町探検であったが、児童がこの学習を家庭や地域に持ち帰り、家族で避難場所を見て回ったりすることや、地域の方々と一緒に避難訓練する等の活動につなげていきたい。

14. 今後の課題

- ・校区内にある避難場所のなかで、より安全な避難場所に向かって、可能な限り安全に気をつけて避難することができるよう、さまざまな状況を想定して定期的に避難訓練を積み重ねていくこと。
- ・家庭・地域との連携【合同避難訓練をする等して避難場所の周知・共有をしていく。】
- ・消防署、警察署、町役場、教育委員会との連携(校区内安全点検等を通して情報を共有しておく。)

15. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。